

年 組 (番) 名前

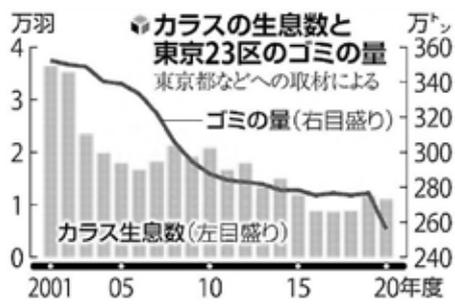
記入日 月 日

ゴミ減ってカラス減る

厄介者のイメージが強い東京都心のカラスが減っている。対策を始めてから4年で半減し、約20年で3分の1以下になった。生息数の推移から透けてみえるのは、ゴミをめぐる世の中の変化だ。

1990年代後半の東京・銀座では毎朝、飲食店などが出したゴミ袋が破られ、道を歩けないほど残飯が散らかっていたという。各店が蓋付きゴミ箱を導入し、午前2時から回収する今は、カラスを見なくなった。

都心のカラスは2000年前後が最も多かつ



た。東京都には「ゴミを散らかす」鳴き声がうるさい「襲われて怖い」など多くの苦情が寄せられ、社会問題化。都は01年から、餌となるゴミの早朝収集を自治体に呼びかけるなどの対策を始めた。

1 傍線部「ゴミをめぐる世の中の変化」について、①～③を時期が古い順に並べましょう。

- ① 東京都がカラスの苦情を多く受け、ゴミの早朝収集などを呼びかけ始めた
- ② 日本の経済成長に伴い、飲食店などから大量の食べ残しが路上に出された
- ③ 飲食店などの「事業系ゴミ」が有料化され、ゴミの量が徐々に減り始めた



2 グラフを見ると、カラスとゴミのどのような関係がわかりますか。□にあてはまるように、記事から20字でぬき出しましょう。

東京都が対策を始めてから、

していること

3 カラスが「人間のふるまいに翻弄されている」とは、具体的にどのようなことを指していますか。最も適切な説明を次から選び、番号で答えましょう。

- ① カラスは自分の意思では動かず、人の思い通りになるということ
- ② カラスは人の指示を理解することができる賢い動物だということ
- ③ カラスの生息数が人の行動次第で増えたり減ったりすること
- ④ カラスの数の増減に、人間は対策を考え振り回されているということ
- ⑤ カラスは人間の行動をよく観察した上で餌を見つけるということ

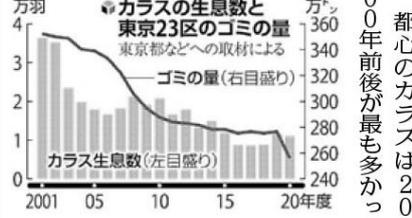
(2022年5月9日 読売新聞夕刊より)

飲食店などから出される「事業系ゴミ」が有料化された影響などで、90年代から徐々にゴミの量が減り始めた。防鳥ネットや蓋付きゴミ箱が普及して「食べられるゴミ」も減り、カラスの数はゴミの量と連動するように減少した。今後、対策が徹底されれば生息数はさらに減るとみられる。研究者は「カラスはたくさんゴミを出せば増え、マナーを守れば減る。人間のふるまいに翻弄されている」と指摘する。



ゴミ減ってカラス減る

厄介者のイメージが強い東京都心のカラスが減っている。対策を始めてから4年で半減し、約20年で3分の1以下になった。生息数の推移から透けてみえるのは、「ゴミをめぐる世の中の変化」だ。



1990年代後半の東京・銀座では毎朝、飲食店などが出したゴミ袋が破られ、道を歩けないほど残飯が散らかっていたという。各店が蓋付きゴミ箱を導入し、午前2時から回収する今は、カラスを見なくなった。都心のカラスは2000年前後が最も多かった。東京都には「ゴミを散らかす」「鳴き声かうるさい」「襲われて怖い」など多くの苦情が寄せられ、社会問題化。都は01年から、餌となるゴミの早朝収集を自治体に呼びかけるなどの対策を始めた。

カラスは昔から多かったわけではない。都が1973〜78年に行った調査では、都心で大規模な繁殖は確認されていなかった。80年代から増え始めたというカラスの数と関係しているのが、ゴミの量だ。東京23区のゴミ回収量は、85年度に約397万トンドしたが、90年度には約1.2倍(約

た。東京都には「ゴミを散らかす」「鳴き声かうるさい」「襲われて怖い」など多くの苦情が寄せられ、社会問題化。都は01年から、餌となるゴミの早朝収集を自治体に呼びかけるなどの対策を始めた。

480万ト)になった。カラスの研究者は「経済成長に伴い、路上に大量の食べ残しが生ゴミとして出された。カラスが食べ放題だったので繁殖した」と分析する。

飲食店などから出される「事業系ゴミ」が有料化された影響などで、90年代から徐々にゴミの量が減り始めた。防鳥ネットや蓋付きゴミ箱が普及して「食べられるゴミ」も減り、カラスの数はゴミの量と連動するように減少した。今後、対策が徹底されれば生息数はさらに減るとみられる。研究者は「カラスはたくさんゴミを出せば増え、マナーを守れば減る。人間のふるまいに翻弄されている」と指摘する。



1 傍線部「ゴミをめぐる世の中の変化」について、①～③を時期が古い順に並べましょう。

- ① 東京都がカラスの苦情を多く受け、ゴミの早朝収集などを呼びかけ始めた
- ② 日本の経済成長に伴い、飲食店などから大量の食べ残しが路上に出された
- ③ 飲食店などの「事業系ゴミ」が有料化され、ゴミの量が徐々に減り始めた



①～③の内容がどこに書いてあるか見つけられましたか。①は01年から始めたとあります。②はすぐ前の段落に、ゴミが85年から90年度で1.2倍になったと書いてありますね。③は90年代の出来事です。

2 グラフを見ると、カラスとゴミのどのような関係がわかりますか。

□にあてはまるように、記事から20字でぬき出しましょう。

東京都が対策を始めてから、	カ	ラ	ス	の	数
は	ゴ	ミ	の	量	と
る	よ	う	に	減	少
					していること

棒グラフで表されているカラスの数と、折れ線グラフで示されているゴミの量は、どちらも同じような右下がりになっています。そのことを説明している部分をさがしましょう。

3 カラスが「人間のふるまいに翻弄されている」とは、具体的にどのようなことを指していますか。最も適切な説明を次から選び、番号で答えましょう。

- ① カラスは自分の意思では動かず、人の思い通りになるということ
- ② カラスは人の指示を理解することができる賢い動物だということ
- ③ カラスの生息数が人の行動次第で増えたり減ったりすること
- ④ カラスの数の増減に、人間は対策を考え振り回されているということ
- ⑤ カラスは人間の行動をよく観察した上で餌を見つけるということ

この部分は、直前の一文「カラスは～減る」の内容を、言いかえたものです。「翻弄」は難しい言葉なので、意味を国語辞典で確認しましょう。



読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事



プラごみ原因 ジュゴン死ぬ

タイの海で保護され、かわいい姿が人気を呼んでいたジュゴンの赤ちゃん2頭が8月17日と22日に次々に死んでしまいました。

1頭の死因は、腸に詰まったプラスチックごみだと判明しました。ジュゴンは、国際的に絶滅の危険がある種に指定されています。守っていこうとしている生き物を、人間のせいで死なせてしまったのです。

タイの調査機関は、ツイッターで「私たちはみんな有罪。レジ袋やストロー、ペットボトルを捨てて、どこかで動物を殺している」と表明。今回の悲しい出来事は、「脱プラスチック」への意識を高めなければいけない、という問題を改めて私たちに突きつけています。

(2019年8月29日 読売KODOMO新聞より)



「私たちはみんな有罪」

人間の行動が、生き物たちの命を左右しているのです。